

意見第3号

令和2年12月22日

綾部市議会議長 荒木敏文様

提出者 綾部市議会副議長
種清喜之
賛成者 綾部市議会議員
安藤和明
高橋輝
搦頭久美子

核兵器禁止条約の発効確定に伴う意見書

上記の議案を、別紙のとおり綾部市議会会議規則第14条第1項の規定により提出します。

核兵器禁止条約の発効確定に伴う意見書

この度、2017年7月7日に国連で採択された核兵器禁止条約の批准国・地域が「50」に達したことに伴い、来年1月22日の条約発効が確実となった。

戦後、核兵器による破滅から人類を救うための決め手として、アインシュタインや湯川秀樹などの科学者らが中心となり提唱された「世界連邦」の理念を受けて、わが国では1948年に尾崎行雄らによって「世界連邦建設同盟」が創設された。

また、綾部市は1950年10月14日、核兵器のない世界平和実現に向けて、国内の自治体として初の世界連邦都市宣言を市議会において議決したところであり、宣言以来70年にわたり、核兵器の廃絶を強く訴え、地道ながらも、世界の恒久平和実現に向けた活動を進めてきたところである。

綾部市議会では、2017年10月16日に「核兵器禁止条約への我が国の参加を求める意見書」を提出したところであるが、今日においても我が国の条約への参加がなされていないことは遺憾である。

核兵器禁止条約は、核兵器の開発や実験、生産、保有、使用などを全面的に禁止し、核兵器を非人道的で違法とする初めての国際条約である。本年は、人類が核兵器の脅威を知り未曾有の犠牲を払うこととなった第二次世界大戦の終結から75年の節目にもあたり、今般の条約発効を歴史的な一歩と捉えており、今後、核兵器廃絶に向けた動きが大きく前進することを期待している。

国会では、2005年には衆議院で、2016年には参議院で、それぞれ世界連邦に関する決議がなされ、また、政府は1994年以降毎年、国連において核兵器廃絶に向けた決議案を提出し圧倒的多数の賛成を得ているところである。

この上においては、核兵器禁止条約の採択・発効に繋がった世界的な気運を無駄にせぬよう、唯一の戦争被爆国である日本国が、核兵器保有国と非保有国の橋渡し役を担うとともに、「核兵器のない世界」の実現に向け、同条約への早期の参加と核兵器廃絶に向かう道筋を提示する積極的かつ先導的な関与を果たすよう求める。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

令和2年12月22日

内閣総理大臣、外務大臣、衆議院議長、参議院議長 宛

綾部市議会議長 荒木敏文